

# 北海道地域リハビリテーション

## 広域支援センター一連絡会議報告

北海道リハビリテーション支援センター

加藤正巳 石川朗

# 第1回広域支援センター連絡会

## 目的

平成14年度に設立された4圏域の補助金が本年度で終了となるため、来年度以降の活動の方向性について議論すること。

## 方法

4圏域に来年度以降の活動についてのアンケート調査をあらかじめ実施し、それに基づいて議論を行った。

# 第1回広域支援センター連絡会

## 参加者

各広域支援センターの事務局から1-2名、各担当保健福祉事務所から2名、北海道リハ支援センターから10名、北海道保健福祉部から1名。

## 日時

平成18年6月29日 13時30分より17時まで。

## 場所

札幌医科大学基礎医学研究棟5階

# アンケート項目

1. 広域支援センター活動は必要か?
2. 事務局病院は民間の行う仕事か?
3. 活動を継続するか?
4. 継続するなら、方向性、運営方法は?
5. 予算はどの程度必要か?
6. 民間資金の導入の可能性は?
7. メリットを見出す方向性について
8. 活動継続するための条件は?

# 第1回広域支援センター連絡会

## アンケートへの回答(回答は3圏域)

### 1. 広域センター活動は必要か?

- ・都市部以外で必要。
- ・意義はあるが、会の方針を明確にし、業務に無理の出ない体制作りが必要。
- ・必要。

### 3. 活動を継続するか?

- ・総会・理事会では無理という意見が多い。
- ・今後総会・理事会で検討。
- ・検討段階。

# 第1回広域支援センター連絡会

## アンケートへの回答(回答は3圏域)

### 5. 予算はどの程度必要か?

- ・研修会で80万円、講師派遣で12万円。
- ・今後検討。
- ・事務局費、運営会費、ホームページなど30万円。

### 6. 民間資金の導入の可能性は?

- ・考えにくい。
- ・職能団体からの負担金など考えられるが、各団体の意見確認が必要。
- ・検討していないが、可能性を感じる。

# 第1回広域支援センター連絡会

## フリーディスカッションでの意見

### 広域支援センターより

- ・運営委員会を通じたネットワークはできてきている。
- ・継続には、自分たちが何をしていきたいか、を見出していかなければならない。
- ・病院経営側としては協力するメリットが見えない。
- ・包括支援センターとの関係作りを模索したい。
- ・赤字が出たときの責任関係の問題がある。
- ・研修会受講者に生涯教育の点数化のような、目に見える形のものの検討できないだろうか。

# 第1回広域支援センター連絡会

## フリーディスカッションでの意見

### 保健所より

- ・関係者を結ぶ役割は保健所、運営自体は病院にやってほしい。
- ・関係機関との調整は一医療機関ではできない。保健所だからできる部分がある。
- ・道支援センターがどういった支援をするか重要である。
- ・先々地域をどうしていきたいか、という共通認識や機運の高まりがないと継続につながらない。



# 第1回広域支援センター連絡会

## フリーディスカッションでの意見

### 道支援センターより

- ・意義は何か、どういうメリットがあるか、地域にどう還元されるかが重要と考える。
- ・代表者会議への旅費や、ホームページの利用などでの支援は可能と考えている。
- ・ホームページに業者のバナーを入れる、など運転資金捻出の工夫が必要。
- ・税金の問題がクリアできれば、住宅改修業者向けの講習会などを考えても良いのでは。

# 第1回広域支援センター連絡会

## フリーディスカッションでの意見

### 道より

- ・補助金がなくなっても、広域支援センター側から返上するという届けがなければ、センターは残る。
- ・終了後には、補助金の実績報告はなくなり、月々の活動状況のみ報告してもらうことになる。
- ・各地域の実態に即して、推進会議の要項を変更することも可能である。
- ・補助金終了後も推進会議・広域支援センターの活動は継続してほしい。

# 第2回広域支援センター連絡会

## 目的

平成15年度に設立された4圏域の補助金が来年度で終了となるため、20年度以降の活動の方向性について議論すること。

## 方法

4圏域に20年度以降の活動についてのアンケート調査をあらかじめ実施し、それに基づいて議論を行った。

# 第2回広域支援センター連絡会

## 参加者

各広域支援センターの事務局から2名、各担当保健福祉事務所から1-2名、北海道リハ支援センターから12名、北海道保健福祉部から2名。

## 日時

平成18年12月12日 13時30分より17時まで。

## 場所

札幌医科大学基礎医学研究棟5階

# 第2回広域支援センター連絡会

## アンケートへの回答

### 1. 広域センター活動は必要か？

- ・無いよりはあった方が良い。
- ・地域連絡会的活動は必要だが、組織のあり方の再考が必要。
- ・必要。

### 3. 活動を継続するか？

- ・今年度で終了となる圏域の動向をみながら検討。
- ・続ける方向で考える。経費のかからないように検討。
- ・未定。

# 第2回広域支援センター連絡会

## アンケートへの回答

### 5. 予算はどの程度必要か？

- ・研修会の有料化などで通信費・雑費に10万円程度。
- ・通信費・印刷製本など50-60万円。
- ・事務関係で50万円。

### 6. 民間資金の導入の可能性は？

- ・考えにくい。
- ・冊子を作成したり、ホームページへの企業広告など。
- ・広域支援センターのシステムを利用していただき、対価をいただくことが考えられる。

# 第2回広域支援センター連絡会

## フリーディスカッションでの意見

### 広域支援センターより

- ・同一地域内で病院が競合している中で、事務局病院に対する他院からの協力が得にくい。
- ・推進会議に、包括支援センターなど利用者へサービス提供する機関の評価と研修の役割を持たせたい。
- ・包括支援センターの協議会委員になるために活動しているが、団体の位置づけが不明瞭であることがネックになっている。

# 第2回広域支援センター連絡会

## フリーディスカッションでの意見

### 保健所より

- ・元々地域のリハ研究会を基礎としているので、今後も継続していけるのではないか。
- ・講師バンクから、介護保険の施設への派遣が多く、介護保険の方で何かできるのではないか。
- ・現時点では、会費徴収のためのメリットがない。
- ・リハ関係施設、市町村、介護保険事業所へのアンケートで職種間連携、情報交換が期待されていた。



# 第2回広域支援センター連絡会

## フリーディスカッションでの意見

### 道支援センターより

- ・誰のために、何をやる広域支援センターなのかということをはっきりさせるべきである。
- ・道支援センターのホームページを利用した、情報公開、会費徴収の方法を検討していきたい。
- ・第三者機関的に評価を行うなど、特化した目標がないと、継続することは困難と感じる。
- ・地域のニーズを発掘し、何ができるかを再度見直すことが大切と考える。

# 第2回広域支援センター連絡会

## フリーディスカッションでの意見

### 道より

- ・補助金は立ち上げ資金として、5年限定のものである。
- ・指定基準を市町村、保健所及び協力病院等により構成される、推進会議などの組織体とする。
- ・要綱を改正して、事務局は病院のみではなく、老健施設や包括支援センターでも担えるようにしたい。
- ・保健所が事務局とはできないが、事務局業務に参画すると指定要綱に載せていく。